

1 乳児院事業全般

「済生会創設の精神のもとに、児童を取り巻く社会情勢の変化に柔軟に対応し、子どもが大人に守られ、大切にされ、安心して生活できる開かれた安全な養育環境を整え、入所児童の生命と人権を守り、健やかな成長を支援する」という理念のもとに保育目標・保育方針・運営方針・保育計画に沿って、日々の養育に細心の注意を払って子どもたちを観察し、よりよい保育を目指すとともに、子どもたちが日々心健やかに成長するよう、常に処遇の向上に努めている。

施設内における入所児童へのマルトリートメントの防止と発生時の対応についても引き続き、全職員での共有を図り、処遇意識の向上に努めた。

令和6年度は、移転後の環境の変化に子どもたちも職員もだいぶ慣れ小規模グループケアの良さを実感する反面、情報共有のあり方など課題もみられ、処遇の質の向上に向けて取り組んでいる。

2 入所児童の状況

イ 入所状況

令和6年度中に措置入所した児童は、14人で、その入所理由は虐待 5人、保護者障害・疾病 5人、経済的困窮 1人、家庭事情 1人、母未婚の出産 1人、母の受刑 1人でであった。

○措置実績

(延人数)

令和5年度			令和6年度 (3月まで)		
仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計
3,988	3,831	7,825	3,873	4,447	8,320

ロ 児童処遇の状況

令和6年度の在籍(取扱い)児童数は、措置児童が35名であった。措置児童の入所理由は、半数の13名が虐待を理由とした入所となっており、何らかのこころの傷を負った乳幼児が多くなっている。このような状況に対応し、家庭支援専門相談員が入所児童のアセスメント会議を開催し、支援職員(心理職員、相談職員、栄養管理職員、個別対応職員など)と担当職員とでアセスメントを行い、児童への支援方針の決定及び担当職員への助言や指導を行い、適正な処遇に努めた。(アセスメント会議: 19回開催)

さらに、虐待等による課題を抱える児童に対しては、心理職員による療育的アプローチを含む個別心理ケア(延べ250回)を行うほか、児童精神科医とスーパーバイズ契約を締結し、毎月心理職員へのスーパーバイズ(12回)を行った。

ハ 児童の栄養管理・給食

入所児童の発達状況や体調を把握し、個々の児童に合った食事の提供を行っている。食物アレルギーのある児童に対しては、医師の指導の下アレルギー対応食の提供を行った。また、季節に合わせて行事食を提供し、日々の生活の中でも変化のある食事提供を行っている。

移転後には調理員によるホームへの出張調理(8回)を行い、子どもたちの目の前で調理し、子どもたちに喜ばれていた。また、食育の観点から子ども達が収穫した野菜を調理して提供した。

ニ 児童の健康管理

フリーの看護師を毎日配置し、入所児童全体の健康観察を実施し、体調管理を行った。さらに、医療連携担当看護師が病虚弱児の通院介助や医師の診察支援等を行い、他職種への体調に関する情報を的確に伝え、連携を密に行った。

	入所児の延べ通院回数（クリニック通院含む）
令和6年度	541回
令和5年度	407回

感染症対策では、ホーム間の移動や感染児の隔離や対応により比較的適切な対応が可能となっているが、令和6年度は2回の集団感染が発生した。

感染症が発生した際は、速やかに完成症対策委員会を開催し感染防止対策を検討するとともに保健所に報告した。

○新型コロナウイルス感染症集団感染

- ・8/22～9/9 最初に職員が発症し累計13名（児8名，職5名）
- ・0歳男児1名入院（9/1～9/3）

○インフルエンザ集団感染

- ・12/31～1/18 最初に職員が発症し累計28名（児13名，職15名）

ホ 退所状況

当院の入所児は、親からの分離体験を持ち、加えて虐待体験を経ての入所児がいる。当院においての生活により担当養育者との愛着関係を構築しているものの、当院を退所するという事は再び分離体験をすることとなる。

したがって、退所にあたっては、十分なケアのもとに次の養育者に引き継ぐことを目指している。家庭養育や家庭的養育の里親委託が図られるよう、児童相談所と連携し、養育担当職員が中心となり、家庭支援あるいは里親支援の専門相談員及び心理職員が協力（多職種連携）し、退所の促進に取り組んだ。

退所時には、看護師による予防接種、乳幼児健診、病気や通院の内容説明等を実施し、さらに栄養管理職員による保護者・里親への食事相談などを実施した。

令和6年度中に退所した児童は11人で、家庭復帰 3人，他施設 1人，里親委託7人であった。

へ 病虚弱児加算対象児の受け入れ

疾病や傷害があり援助が必要な病虚弱児を受け入れているが、専用の居室がないため健常児と一緒にスペースで生活しており、令和6年度は延人数122人（45.0%）で、診療科が多岐に渡る児童が多いため通院の負担が大きくなっている。

3 一時保護受託事業

児童福祉法第33条に基づき児童相談所長が行う一時保護を受託した。令和6年度の一時保護児童の受入（取扱い）児童数は、33名となり、9名が当院への措置入所となった。

○ 受託実績

(延人数)

令和5年度			令和6年度（3月まで）		
仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計
788	917	1,705	576	1,512	2,088

4 子育て支援ショートステイ事業（第二種社会福祉事業，仙台市，富谷市委託事業）

家庭で子どもの養育が一時的に困難になった時に子どもを預かる仙台市の事業を受託した。

○ 利用実績

(延人数)

	令和5年度			令和6年度		
	2歳未満児	2歳以上児	計	2歳未満児	2歳以上児	計
仙台市	21	2	23	4	25	29
富谷市				9	0	9
計				13	25	38

5 里親レスパイト受託（県中央児童相談所からの要請）

当院から里親委託している児童について、里親の事情によりレスパイトの希望があり、延2回36日間受託した。

6 病児・病後児保育事業

病児・病後児保育こどもケアルームは、令和4年度まで小児科（宮城県済生会こどもクリニック）併設型で行ってきたが、移転計画に伴い、令和5年度から乳児院（宮城県済生会乳児院）併設型に移行した。富谷市、利府町、大衡村からの受託と、宮城県済生会の単独事業として、その他の市町村を対象に実施している。子育て支援事業の一環として、病気や事故、出産、冠婚葬祭などで保育所や家庭保育が困難な病児・病後児を対象に保育を行っており、周辺市町村への広報活動を継続的に行い、令和7年4月からは大和町から受託し今後も利活用の促進に努めている。

○ 利用実績

	(延人数)	
	令和5年度	令和6年度
仙台市	75	1
富谷市	46	131
利府町	1	4
大衡村	0	0
その他市町村	0	0
済生会 (福利厚生)	5	8
計	127	144

7 地域支援

イ 育児指導機能強化事業

令和6年度より【育児指導担当】が配置され、入所児童やその家族、また地域で子育て中の家庭等から子育てに関する相談に応じている。

- ・一時保護児の保護者面会及び育児手技に関する支援（8件）、退所後のアフターケア。家庭訪問（1件）、来院相談（1件）、個別ケース会議出席（10回）
- ・ショートステイ利用後の電話相談から来院相談に結び付いたケース（1件）
- ・読み聞かせボランティアとの交流会（1回）

ロ 心理職による地域支援活動

- ・育児指導担当者との連携し、家庭訪問（8回）、面接・電話による相談（28回）、富谷市要保護児童対策協議会実務者会議等への参加（40回）と心理職の役割が急増している。

8 自己評価の実施

① 評価実施期間 令和7年2月26日から令和7年3月20日（調理・業務除く）

② 総評

（評価の高い点）

- ・保護者との面会時に担当養育職員が同席し、保護者とのコミュニケーションを可能な範囲で行うことで、子どもの気持ちの安定を図り、子どもの発達状況を伝えることが出来ている。
- ・経営環境の変化、経営課題を周知することにより、子どもの利用率や必要時の人員配置など職員の意識が高まった。
- ・地域の福祉向上のための取り組みを具体化し、育児支援相談、産後ケア事業に取り組み始めたところ。
- ・衛生委員会、安全管理委員会主導のもと、感染予防のための対策や災害時の安全確保の

訓練等行っている。

(改善が求められる点)

- ・実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成については専門職種の特性に配慮したプログラム、指導者に対する研修に関して検討していく。
- ・ボランティアの受け入れ態勢を整えた段階。受け入れを行っていく中で継続して検討していく。
- ・リスクマネジメント体制の整備の強化。安全確保・事故防止に対する研修の充実を図っていく。
- ・自立支援計画の策定においては次年度より、策定のプロセスの見直しを行う予定である。
- ・目標管理制度の構築、人材育成制度は今後も検討していく。

9 人財育成

令和5年度事業報告の自己評価の中で「人財育成制度」の改善が挙げられ令和6年度に「宮城県済生会みやぎ乳児院人財育成方針」を策定した。

同方針は、組織として人財育成を行い、職員の倫理観、人間性並びに乳児院職員としての職務及び責任の理解と自覚を高めることを目的にし、経験年数、職責に応じて取り組んだ。

イ 内部研修 内部専門職による講義

- ・家庭支援専門相談員「ソーシャルワーク（8, 9, 10月）」
- ・心理職「アタッチメント（11月）」
- ・栄養士「食育スタンダード（2月）」
- ・里親支援専門相談員「ライフストーリーワーク（3月）」
- ・救急救命講習（2回）

ロ 外部研修

レベル	概要
就任前	・新卒オリエンテーション
初任職員 (5回8名)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度社会福祉施設保健担当職員研修（基礎）（県社協） ・令和6年度社会福祉施設保健担当職員研修（実践）（県社協） ・令和6年社会福祉施設新任職員研修（県社協） ・令和6年度第3回児童相談所職員研修（中央児童相談所） ・施設心理職員合同研修（子どもの虹情報研修センター）
中堅職員 (20回66名)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度家族再統合に関する実務研修（基礎編）（中央児相） ・シェルハブ・メソッドを学ぶ（丘の上乳幼児ホーム） ・第62回子どもの虐待防止セミナー（社会福祉法人子どもの虐待防止センター）（東京） ・第67回全国乳児院研修会（奈良市） ・令和6年度産後ケア事業所向け説明会（県保健福祉部） ・ライフストーリーワーク基礎編（みやぎ里や支援センターけやき） ・第63回子どもの虐待防止セミナー（オンデマンド配信） ・第58回東北・北海道ブロック乳児院研究協議会（青森市） ・キャブネット・みやぎ25周年記念 杉山登志郎講演会（キャブネット・みやぎ） ・第73回全国乳児院協議会（秋田市） ・「支援が難しい子どもの理解と支援の仕方」（仙台市児相）

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度トラウマインフォームドケア研修会（県児相） ・令和6年度済生会福祉施設職員のためのWEB研修「第1回 中堅職員研修」「第2回 キャリアパス構築研修」「第3回 広報研修」 ・令和6年度社会福祉施設中堅・監督職員研修（県社協） ・里親支援センター等人材育成プログラム（日本福祉大学） ・第12回全国LSW実践・研究交流会（みやぎ里親支援センターけやき） ・令和6年度第2回宮城県地域共生社会推進会議（県社協） ・令和6年度関係機関職員研修会（みやぎ里親支援センターけやき） ・第6回乳児院医療・看護セミナー（全乳協） ・令和6年度関係機関合同研修会（中央児相黒川支所）
上級職員 (3回8名)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設指導者研修（子どもの虹情報研修センター） ・乳児院指導者研修（会場子どもの虹情報研修センター） ・第13回乳児院上級職員セミナー（全乳協）
基幹的職員 (2回3名)	<ul style="list-style-type: none"> ・東北・北海道ブロック乳児院協議会（青森市） ・宮城県社会福祉法人経営者協議会（県社協）

10 各種行事

イ 各種会議の開催

会議名	出席者	内容	開催回数
職員会議	職員	施設運営に関する職員の情報共有等研修会	11回
支援会議(全体)	施設長, 副施設長, 支援職員, 養育担当職員	各児童の発達状況や注意事項を確認し, 養育担当職員が共有する	10回
アセスメント会議	施設長, 副施設長, 支援職員, 養育担当職員	支援職員と担当職員が, 児童のアセスメントを行い, 支援方針の決定や指導・助言等を行い, 当該児童の処遇方向を共有する	19回
リーダー会議	副施設長, 各リーダー	入所児養育支援の企画検討 ユニット間の情報共有	9回
評価委員会	施設長ほか	開催案件無し	
安全管理委員会	副施設長, リーダーほか	事故防止対策及び安全計画の検討	12回
広報委員会	広報委員	広報誌の企画, 編集 乳児院の広報・取材対応	8回
給食委員会	施設長, 栄養士, 調理員, 直接処遇職員	給食の位置づけ及び目標を定め, 給食運営が適切に行われているかの検討。食事についての諸問題を検討	11回
衛生委員会 (看護職会議)	看護リーダー 看護職員	感染症予防対策, 衛生管理ほか	12回

運営委員会	施設長，副施設長，各専門職，ユニットリーダー	乳児院の運営全般についての企画、事業の進行・管理等を行っていく。各委員の担当業務や委員会からの報告	10回
ホーム会議	各ホーム職員	各ホームの運営や子どもに関する情報共有	58回

ロ 院内行事

(全体)

こどもの日お祝い(5月)，七夕祭り(7月)、夏まつり(7月)，クリスマス会(12月)，節分(2月)その他各月ごとに誕生会を実施した。

(ホーム)

誕生会(該当月)，ハロウィン(10月)、ひなまつり(3月)、お別れ会(3月)

ハ 院外行事

(全体) 八木山動物公園(5月)、七五三参り：護国神社(11月)

(ホーム) アンパンマンミュージアム(4, 11, 2月)，八木山動物公園(5, 6, 10月)

イオンモール富谷わいわいパーク(5, 11月)，仙台駅(6月)，うみの杜水族館(10月)，七北田公園(11月)，イオンタウン泉大沢ちきゅうのにわ(3月)

ニ 防火・防災訓練

令和6年度は、職員・児を入れた昼間、夜間想定 of 火災発生時避難訓練を計9回(法廷訓練2回、任意7回)実施した。同様に夜間想定 of 地震発生時避難訓練(任意)を計5回実施した。また、夜間想定 of 乳幼児無呼吸時対応訓練を任意訓練時に8回実施している。月1回を目標に訓練を計画・実施してきたが、感染症の要因から実施することができない月があった。

1 1 広報

イ 乳児院の広報誌「まんまる」の発行を年4回行い、保護者や関係機関等に送付し、院内活動や行事における子どもたちの様子をお知らせした。

ロ ホームページにて行事活動を逐次広報することにより、乳児院の仕事内容の周知を図るとともに職員募集へ効果的に結び付けた。新たに「地域支援事業」「産後ケア」「子どもの食と栄養」「寄付とボランティア」の項目を追加し、地域の子育てを支援する乳児院の機能を周知した。

1 2 その他

イ 実習生の受入れ

- ・保育実習～7校(14名)
- ・介護体験～2回(2名)

ロ 里親研修の受入れ

- ・登録前里親研修(2日間) 7組(9名参加)
- ・里親更新研修(1日) 1名

ハ 施設見学等の受入れ

○他施設訪問調査

- ・丘の家乳幼児ホーム(2回)

- ・富谷市子育て支援センター「とみここ」(3回)
- ・群馬県桐生市桐乳児園(1回)
- ・山形県済生会はやぶさ(1回)
- 施設見学(一般・学生)受け入れ
 - ・就活見学(学生6名, 一般6名)うち5名採用。
 - ・施設見学(児童相談所他16団体84名)